

目指せ！
廃棄梨を使った和牛ストーリー

動機

いわき市の特産品から
新たな飼料を開発

昨年度
の計画

これまでの取り組み

肥育牛飼養管理方法確立

肥育牛舎視察研修

超音波・血液検査

中学生への食育講話

牛肉特別販売会



販売会

試食とアンケート



磐農牛購入回数

初回200名越え

■ 1回目 ■ 2回目 ■ 3回目 ■ 4回目

高

販売会

告知の力



磐農牛肉販売会

【私たちの取り組み】

いわき市で生まれ育った肥育素牛を導入し「**地産地消**」を目指しました。今回初めて、地域の中学校で「**食育活動**」を行い、多くの方々に和牛について知っていただく取り組みを行っています。

【第7回和牛甲子園 出品牛】

「**和牛甲子園**」とは全国の農業高校が日頃の和牛飼育の取り組みを発表し、枝肉の肉質を競う大会です。今回は「**国雄**」、「**諒太**」の2頭を出品しました。ともに生後30ヶ月の去勢牛の黒毛和種です。



【**国雄**】 血統 (美国種 × 聖香種 × 安福久)
【**枝肉評価**】



【**国雄**】

枝肉重量 499kg
格付評価 A5 (歩留等級) (肉質等級)
B.M.S No.12 (脂肪交雑率)



【**諒太**】 血統 (諒太郎 × 美津照重 × 百合茂)



【**諒太**】

枝肉重量 571kg
格付評価 A5 (歩留等級) (肉質等級)
B.M.S No.11 (脂肪交雑率)

2月10日 (土) 10:00~**マルト中岡店** 13:00~**マルト窪田店**
10:00~**マルト岡小名店** 13:00~**マルト湯本店**
2月11日 (日) 10:00~**マルト尼子店** 13:00~**マルト草野店**
にて販売会を行います！よろしくお願致します！！



取組活動

4つの柱

- ① 廃棄梨を飼料として
- ② 初めての自家産肥育牛
- ③ 瑕疵の予防について
- ④ 実践可能なSDG s



取組活動

4つの柱

① 廃棄梨を飼料として

② 初めての自家産肥育牛

③ 瑕疵の予防について

④ 実践可能なSDGs

いわき市

長ネギ



梨



磐農

食品流通科 加工部門



取組①

廃棄梨と皮



廃棄梨



皮

取組①

水分調整



100%



50%程度



80%程度

水分量

菜食の有無

保存

100パーセント

無

×
(腐敗)

30パーセント

微量

×
(カビの繁殖)

0パーセント

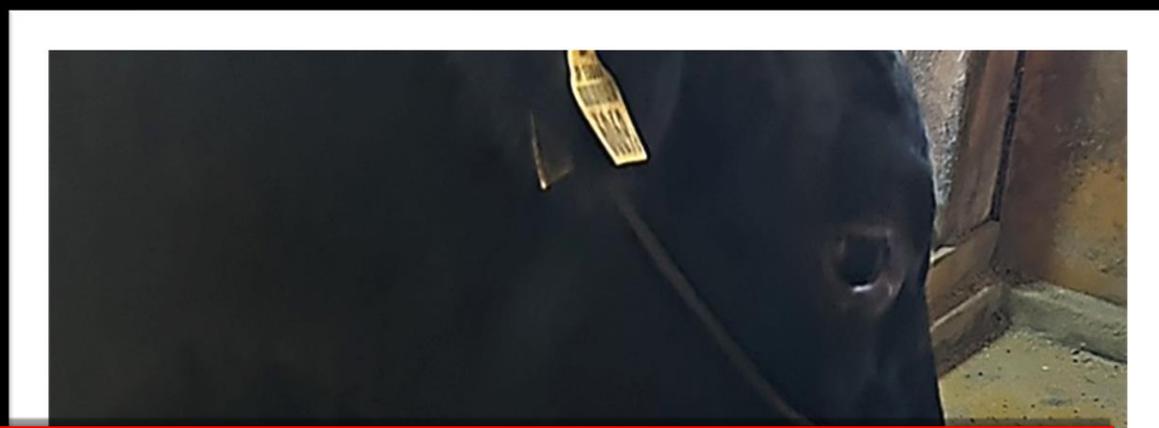
完食

○



取組①

ミルを使用



採食量変わらず



4つの柱

① 廃棄梨を飼料として

② 初めての自家産肥育牛

③ 瑕疵の予防について

④ 実践可能なSDGs



取組②

出品牛の紹介

きた87号

磐農初!
自家産牛

幸紀雄→美国桜→華春福

取組②

出品牛の紹介

ひでこ号

きくた80号

さくら216号

あさがお40号

姉妹

茂晴花 → 幸紀雄 → 美津照重



4つの柱

- ① 廃棄梨を飼料として
- ② 初めての自家産肥育牛
- ③ 瑕疵の予防について
- ④ 実践可能なSDG s

取組活動

瑕疵の予防について

①カウコンフォート

取組③

カウコンフォート

STOP

綺麗な牛体

興奮行動

乾いた牛床

扇風機



取組活動

瑕疵の予防について

①カウコンフォート

②発情行動抑制

取組③

発情行動抑制

発情行動
抑制成功！！





取組活動

4つの柱

- ① 廃棄梨を飼料として
- ② 初めての自家産肥育牛
- ③ 瑕疵の予防について
- ④ **SDGs**

計画④

SD

フードロス

カウコンフォート

育てる責任

任せてください



SDG 良質な堆肥の生産

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



6 安全な水とトイレを世界中に



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



16 平和と公正をすべての人に



17 パートナーシップで目標を達成しよう



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

今後

継続は力なり



